

新卒看護師を指導する実地指導者へのサポートプログラムの開発



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 看護学科 講師

田辺 幸子 Tanabe Sachiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 実地指導者・困難感・尺度開発・バーンアウト



研究の概要

SDGs 目標 8 : 働きがいも 経済成長も

新卒看護師を教育する実地指導者は、学生から看護師への移行期における継続教育を担う重要な存在であり、新卒看護師の職業的発達や職場適応に大きな影響を与える役割を果たしている。一方で、実地指導者は新卒看護師の教育に加え、リーダー業務や医療チームの一員としての役割など、多様な業務を同時に担っている。このような状況の中で、多様化する価値観や学習背景をもつ新卒看護師を指導することは、実地指導者にとって大きな負担となり、指導上の困難感を抱くことが少なくないと考えられる。

本研究は、質的帰納的研究「新卒看護師を指導する実地指導者の困難感」で得られた結果を基盤として、作成した「実地指導者の困難感尺度」を用いて、実地指導者の困難感がバーンアウトに及ぼす影響について検討をおこなう。具体的には、困難感を構成する因子とバーンアウトとの関連性を明らかにする因果モデルを構築し、共分散構造分析等の統計的手法を用いてその妥当性を検証する予定である。さらに、検証された因果モデルをもとに、実地指導者の困難感を軽減し、バーンアウトを予防するための支援の在り方について検討する。具体的には、困難感の高い側面に応じたサポートの内容を整理し、実地指導者を対象とした支援プログラムの構成要素を提示することを目指す。本研究を通して、実地指導者が継続的に役割を果たすための教育的・組織的支援の基盤となる知見を提供することを目的とする。

新卒看護師を指導する実地指導者の困難感尺度信頼性・妥当性の検証
(3因子20項目の尺度完成)



実地指導者の困難感とバーンアウトの因果モデルの検証
NIOSHの職業性ストレスモデルを参考に概念枠組みを作成し、実施する。



実地指導者に対する支援プログラムの内容の検討

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

新卒看護師に関する研究は積み重ねられており、支援も充実してきている。しかし、指導する立場の実地指導者に対する先行研究は少なく、実地指導者への支援については、充実していないのではないかと考える。新卒看護師の指導上の困難感を乗り越えることで、実地指導者の成長につながると考える。実地指導者としての役割に自信を持ち、新卒看護師と対峙できることで、新卒看護師の指導も充実し、新卒看護師の成長にもつながると考える。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「Difficulties in Instructing Novice Nurses as Perceived by Preceptors」

【学会発表】

- ・「新卒看護師を指導する実地指導者の困難感を評価する尺度の開発」